

従業員向け

児童発達支援・放課後等デイサービス 評価表

○ 本評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所に従事する従業員の方に、事業所の自己評価していただくものです。

「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業員の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・利用児童の人数に合わせてスペースを有効活用できている ・十分な広さとは言えない事業所もあるが、よく目が行き届くよう死角をなくし、安全な療育に配慮している
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・療育環境に適した職員配置となっている ・利用する児童の状況や、職員の急な欠勤などで適切ではないときもあるが、職員で連携を取り臨機応変に対応できている
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・目線をこどもに合わせてたり、死角をなくす等、安全に配慮した環境設定になっている ・バリアフリーに関しては完全ではないが、児童の年齢幅に合わせた生活空間に配慮している
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・日々の整理整頓、清掃、消毒などしっかり行われている ・収納など工夫し、療育室内には不必要なものを置かないよう空間作りをしている
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・別室が無い事業所では、必要に応じパーティションなどで区切ることで個別療育などに対応したり、一人で落ち着きたい時など、少し離れた場所に対応できるようなスペースを確保している
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・職員個人が年間目標を設定し、振り返り自己評価を行うことで、業務に対する意識向上と自己研鑽の機会を設けている
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・実施、公表を行っており、保護者の意向や指摘内容を各事業所で把握。業務改善に向けて参考にしている
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・個人面談の定期的な開催を行っている。意見を言いやすい環境づくりなどに配慮している ・会議や打ち合わせを通して療育や業務の在り方をスタッフ間で検討している
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・第三者による外部評価は行っていない
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・社内研修は2か月に1回行っている。義務研修の他にも療育内容に触れた研修も行き、意識向上に努めている。 ・更に全てのスタッフが外部研修に参加しやすい体制がとれるよう努めていきたい。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・作成し、ホームページにて公表を行っている
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画・放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・少なくとも半年に1度アセスメントを行い、児童発達支援管理責任者を中心に計画に反映し、適切に作成している
	13 児童発達支援計画・放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・児童発達支援管理責任者を中心に、他有資格者からのモニタリングや全職員の療育記録を参考に計画書作成を行ったうえで、職員会議を行い検討を重ねている
	14 児童発達支援計画・放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・職員会議にて共有している ・全ての職員が、すぐに手に取り計画内容を確認できるようにしている

15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・アセスメント用紙にて定期的にアセスメントを行うほか、療育日誌なども活用し確認を行っている
16	児童発達支援計画・放課後等デイサービス計画には、各ガイドラインの「提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・必要に応じて関係機関と連携を取り合ったり、保護者からの相談に応じながら、提供すべき支援を行っている。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・担当制で立案し、朝のミーティングにて共有、相談を行い日々の療育を行っている
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・体育、音楽、制作、遊びの4つのプログラムをローテーションし、内容はその日の利用児童の特性を考慮しながら、画一的なプログラムにならないよう場面に応じた工夫をしている
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画・放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・利用児童の状況に応じて計画に反映し作成、支援を行っている
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・朝のミーティングにて、その日の利用児童の特性、想定される出来事、保護者からの意向などを共有し、支援の計画内容が適切か、それに沿った役割分担等を確認している
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	○	・振り返りとしての時間を設ける時間がない現状ではあるが、児童の様子や職員の動きなど、気付いた点は必ず共有している。今後設定していきたい
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・毎日記録をしている。同様のプログラムを設定する際には以前の記録を見直し、改善につなげている
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画・放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・計画期間内に必ず見直し、更新を行っている
24	<※放課後等デイサービスのみ> 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	○		・小学生の利用頻度が低いため、むずかしさを感じているが、日常の療育の他に、社会体験活動や地域のイベントに参加したりと、社会生活を意識した活動を取り入れている
25	<※放課後等デイサービスのみ> こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・小学生の利用頻度が低いため、むずかしさを感じているが、職員が設定するプログラムの他に児童が自ら決める・他児と話し合うなど、学校生活への柔軟な対応を意識した活動も行っている
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・児童発達支援管理責任者を中心に体制を整えている
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・児童発達支援管理責任者を中心に体制を整えている。関係機関によって温度差もあるため、今まで以上の連携が必要と感じている
28	<※児童発達支援のみ> 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・送迎の際などに利用児童の状況を共有している。必要に応じて園での様子を見学したり、事業所での様子を見学してもらい、情報共有・相互理解を図っている
29	<※児童発達支援のみ> 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・保護者からの聞き取りが主となるが、必要に応じて学校見学や電話連絡を行い、情報共有に努めている
30	<※放課後等デイサービスのみ> 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・学校と直接のやり取りは少ないが、保護者を通して情報共有を行ったり、連絡調整を行っている

や 保 護 者 と の 連 携	31	<※放課後等デイサービスのみ> 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・現在通所児童がいる園とは、情報共有ができています
	32	<※放課後等デイサービスのみ> 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	・対象児童がいなかったため未実施
	33	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		・定期的に訪問していただき、助言をいただいている ・必要に応じて連絡を取り合い、連携している
	34	児童発達支援では保育所や認定こども園、幼稚園等、放課後等デイサービスでは放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		・児童会館や地域のこどもが利用する施設へ出向き交流を行うこともある ・地域のイベント等に参加し、交流を図っている
	35	<※放課後等デイサービスのみ> (自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		○	・積極的な参加は出来ていないが、区の協議会への参加はできるだけ行うようにしている
	36	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・送迎時に必ず一日の様子を報告するほか、連絡ノートや電話を通じてこどもの状況や課題について共有している
	37	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	・ペアレントトレーニングなど保護者が参加できる研修会は設定していない。参観や懇談時に必要に応じ情報提供などは行っている
保 護 者 へ の 説 明 等	38	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時に丁寧に説明を行っている。変更がある場合は速やかに対応している
	39	児童発達支援計画・放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・事前にアセスメントを行い、計画作成の際には必ず保護者の意向を尊重している
	40	「児童発達支援計画・放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		・基本的に対面にて説明を行い、同意をいただくようにしている
	41	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・参観懇談の機会を年1回以上設定し支援を行うが、送迎時や書面にて相談があった場合にも適時助言や支援を行っている ・随時相談がある時には時間を調整し面談等の機会を設けている
	42	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	・希望が少ないため行ってない
	43	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		児童発達支援管理責任者を中心に体制を整備、対応を行っている
	44	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		○	・現在定期的には行ってない。必要に応じてプリントを発行したり、LINEや連絡ノートを通じて情報提供を行っている
	45	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・鍵付きの書庫にて保管を徹底している
	46	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・個別の事情に合わせ、口頭だけでなくイメージしやすいように視覚化し説明したり、繰り返し伝える等配慮を行っている
	47	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	・時勢として関係者以外の参加・入室はご遠慮いただいている

非常時等の対応	48	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○	・各種マニュアルを策定し、訓練を実施している。保護者への周知は不十分なため、今後周知していく
	49	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		○	・業務継続計画（BCP）を策定している。定期的に見直しや訓練も行っている
	50	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		○	・契約時や定期的なアセスメントで必ず確認している
	51	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	・医師の指示書に基づいていないが、保護者からの情報に基づいて対応している
	52	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		○	・安全計画の作成と全職員への周知を行い、療育環境の整備などを行っている
	53	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○	・緊急時のための避難経路や連絡先の確認、ラインの登録をお願いするなど、契約時を中心に適時確認を行っている
	54	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		○	・報告書作成を必須とし、事業所内だけではなく他事業所にも共有をし、再発防止に努めている
	55	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		○	・社内研修でも取り上げ、職員へ周知徹底している
56	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画・放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○	・計画書に記載しているが、契約時に保護者にも説明し了承をいただくようにしている ・定期的に行う必要がある際には、マニュアルに乗っ取り保護者に説明し了解を得たうえで行うこととしている	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス 北風と太陽		
○保護者評価実施期間	2025/12/20		2026/1/25
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	233名	(回答者数) 153名
○従業者評価実施期間	2026/1/26		2026/2/10
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数) 31名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育室の環境・体制の整備	事業所により療育室の広さにばらつきがあるが、今ある環境の中で整理整頓を心がけ、児童が安全に活動できる環境に配慮するとともに、児童の目線に必要なものを配置することで活動への取り組みや意欲の向上につながり、療育の質を向上させることに寄与している。	さらに療育的価値を高めるために配置された職員の質の向上(各種研修への参加、ABAやSSTなどの療育プログラムの実施など)を目指す 定期的に室内用教具や運動用具を更新していくことで児童への新しいプログラムの提供を図っていく
2	個別療育への取り組み	小集団活動が主となっているが、児童の特性や様子に合わせて個別に課題を設けて療育を行っている。 また児童の様子に合わせた課題に対する継続的な支援ができています。 言語訓練も個別に対応し、専門家のモニタリングに基づき計画を作成している。	児童の特性を把握した上で、できる限り個別療育の時間を設ける事を意識し、研修等で各職員の専門性も高めていく。
3	体験活動・社会活動への積極的な参加	地域のイベント(夏祭り・雪まつりなど)に積極的に参加していくことで地域特性や札幌ならではの社会活動を知るきっかけとしている 季節に合わせた屋外プログラムも提供し、普段の療育では味わえないダイナミックな体験活動も行っている	安全に配慮し、新しい活動にチャレンジしていくことで児童の積極的な参加・自立支援の機会を提供していく

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者への周知	非常災害時に向けた避難訓練実施状況や、事業所で定めているマニュアル等の周知が不十分であることが懸念される。	避難訓練実施時や緊急連絡先などの保護者にとって必要である情報については都度発信をし、情報共有と意識の統一を図っていく。
2	非常時等の対応	法令で定められている各種マニュアル類の整備や避難訓練等の実施は定期的に行われているが、保護者への周知がされていない	マニュアルの整備状況を一覧として保護者に配布し周知を図るとともに、各種訓練実施状況については都度書面にて報告を行うこととする
3			